

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2006年9月15日 第56号</p>
<p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>		<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</p>
<p>E-mail : mizumidori@nifty.com</p>		<p>〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124</p>

食物連鎖・・・

ひとつの命が他の生き物の命に

8月、植物も旺盛に成長し、虫が元気な季節です。

朝うちのドアの前に大きな蛾が止まっていますが、外出する時には羽根だけが床に散らばっていました。目のいいスズメに見つかり食べられたのでしょうか。この季節、道ばたにセミやチョウの羽がよく落ちています。赤塚公園でも生き物のかけらが目につきます。野鳥にとって今は腹一杯食べられる季節なのでしょう。写真は城址の柵の上にあったカブトムシのバラバラ死体です。こんな大きな虫を食べたのは誰？（編集者注：カラスに聞いてみてください。）



バッタ広場のうっそうと茂った草むらに足を踏み入ると、虫取りの少年は見向きもしない小さくて地味な虫がパーッと飛び立ちます。枝葉に隠れて枝そっくりの尺取り虫やキリギリスの仲間がじっとしています。虫たちでにぎわうバッタ広場では、テントウムシ、カマキリ、クモなど肉食の生き物もたくさんいます。わたし達は、シオヤアブが自分の体ほどの大きな虫をくわえて悠然と飛んでいく姿を何度か見ました。「食物連鎖」を言葉でなく、小さな命が他の生き物の命につながっていることを実感する一瞬です。



クモはいたるところにいるが、エサの多い自然な環境では特に多い。名前のわからないものがほとんど。上左コガタコガネグモ、右ジョロウグモ、中左ナガコガネグモ、右クサグモ、下左ササグモ、下右(ワキグロ?) サツマノミダマシらしい。



チャドクガを食べるシオカラトンボ



ハバビロカマキリしっぽを立てて獲物を狙っている？

虫を食べるのはカマキリやクモや野鳥ばかりではありません。

飼っていたチョウチョの幼虫が羽化しないでそのまま死んでしまったことが何度ありました。寄生昆虫に幼虫がやられてしまったようです。寄生昆虫は幼虫のからだに卵を産み付け、幼虫のからだを餌にして（言葉通り食べ物にして）育ちます。

写真は、毛虫（マイマイガの幼虫）と、白いつぶつぶは寄生バチ（コマユバチの仲間）のマユです。コマユバチは毛虫のからだに卵を産み付け、毛虫のからだのなかで孵化し、毛虫のからだを栄養にして育ち、毛虫のからだから出てマユを作り中でサナギになり、羽化して小さなハチになります。写真では毛虫は生きてるように見えますが、中身を食い尽くされてしまった抜け殻です。

もっと大きなヒメバチ類やハエの仲間のヤドリバエ類も種類が多く、チョウ、ガの幼虫によく寄生します。

自然界には、いろんな外敵がいっぱいいるので、昆虫はたくさん卵を産んでもほとんどが食べられてしまい、バランスが保たれているのですね。ムキになって駆除しなくても、害虫はそんなには大発生しないのかもしれない。



私たちは身近な水と緑を将来に残せるか

あきらめずに私たちが関心を持ち続けることが大切ー

身近な水と緑を残すために、私たちは初めて行政に対して正式な働きかけをしました。ひとつはスーパー銭湯の大量地下水くみ上げを減らすよう指導し、揚水規制を含めた広い意味での地下水保全条例を制定してほしいという陳情です。もうひとつは残された雑木林（ほとんどが民有地）を保全してほしいという要望です。景気が上向いてきたのか、雑木林の伐採が相次いでいました。そうこうするうちに成増では不動産業者の手に渡った自然樹林の保全を求める陳情が出されました。私たちも署名に協力しました。

地下水保全の陳情は区議会の区民環境委員会で審議されました。陳情によって、少なくとも水環境が大切だという区民の要望、区議会と区の姿勢は事業者に伝わったと思います。成増自然樹林の保全を求める請願は都市建設委員会で審議されました。

区議会の傍聴は大変貴重な体験でした。一言も発しない議員さんがいるのは驚きでした。よく勉強され、区政に反映されるよう強く働きかける方もいて、大変心強く、ありがたく思いました。そして、いろいろな方々の努力があって、私たちが関心を持っている事柄についても新しい展開がありました。

まず地下水保全条例が制定されることになりました。早々と条例案が広報に出され、区民の意見を募集しました。内容的には地下水保全という言葉からイメージする地下水の涵養（雨水の浸透対策）や健全な水循環回復はあきらめて、井戸所有者の既得権の制限が条例の主眼でした。区民の意見を採用して条例案を修正、ということはやはりありませんでした。水循環回復 - 雨水の浸透 - が効果を上げるには長い時間がかかります。「50年、100年かかるからこそ、できるだけ早く始めるべき」と1980年頃から取り組んでいる自治体もあります（日経新聞9月4日）。未来の板橋区民に板橋の水辺をよい状態で引き継いでいくには、この地下水保全条例は全く不十分です。さまざまな行政部門が関係する地下水保全や水循環回復には、まず縦割り行政の壁を取り払い、横断的な取り組みが必要です。次の機会を待ちましょう。

もうひとつの緑の保全については、思いがけないうれしい展開となりました。板橋区内にある雑木林のほとんどが民有地です。いくつもの樹林地が相続等で次々と失われました。区には民間の樹林地を保全する計画がなく、このまま板橋区は森を失い、コンクリートの固ま

りの街になってしまうのかと、歯がゆく思っていました。ところが、ところが……。区は樹林地を保全する（民間の樹林地およそ13カ所を買い取る）という信じられない急展開を見せたのです。

8月24日の都市建設委員会でも、みどりと公園課長の説明をこの耳で聞きました。板橋区も50年、100年先を考えたまちづくりに取り組んでくれそうな期待感がふくらみました。

さて、板橋区は都市景観基本計画を策定するそうです。策定のための区民委員（わずか3人ですが）の募集があり、8月31日に景観シンポジウムが開催されました。また区内を見て歩きながら景観を学び発見し、良いところや板橋らしい景観について意見交換する「景観ウォークラリー」が9月30日（土）から毎週土曜、全5回にわたって開催されます。

景観とは、板橋区のキャッチフレーズ「みどりと文化の香るまち板橋」の中身のことを意味すると思います。台地があって、崖線があって、荒川低地があり、台地を削る石神井川と白子川がある、この板橋区の地形とその土地に根付いた文化、景観を保全する主体は板橋区と私たち自身です。どのような風景を次の世代に残していくのか、行政と市民が目標を共有し、そのためのルールをつくっていくこととなります（坂本 郁子）

赤羽自然観察公園の観察会に参加しました

赤羽自然観察公園は、都会の中に里山の自然を復元しようとする公園で、自衛隊の跡地だったために自衛隊の残した異物で土地がやせていたそうです。今は復元の途中という事ですが、大きな木もあり池も水路も田んぼもあって中々良い公園です。隣の跡地には今ビオトープも作っているそうです。ここは周りがマンションや住宅に囲まれた場所にあります。

観察会は赤羽自然公園のボランティアの会のメンバーが毎月第一日曜日の10時から行っています。9月3日の観察会には10人ぐらいが参加しました。

田んぼと広場のある場所には沢山の赤とんぼ、リーダーがネットで捕獲 ウスバキトンボでした。ウスバキトンボは昼間は休まずに飛び続けるそうです。名前の由来は羽が薄く、体が黄色いからと説明がありました。



名人が次に捕まえたトンボは ネキトンボ、このとんぼはかなり珍しいトンボで羽の根が黄色いのでネキトンボだそうです。虫の名前もなぜその名前がついたか教えてもらおうと、覚えの悪い私でも覚えられそうです。

次はツマグロヒョウモン 図鑑に拠れば関東地方には居ない事になっているようですが温暖化のためか最近はかなりいるようです。



公園の中を移動しながらの観察では、赤塚公園でもおなじみのコミスジ、カラスアゲハ、セセリチョウ、シジミチョウなど、ここで蛾と蝶の違いの説明を受けました。

違いの一番分かりやすいのは、触角で蝶は触角の先に○が付いていてこん棒型、蛾は○が付いてないようですが、例外も多数あるそうです。

又蝶と蛾を分けているのは、日本だけとか、蛾の種類は日本だけでも5千種類で蝶はその16分の1位とか、面白い話も沢山聞かせてもらいました。生き物の世界は奥が深い、聞けば聞くほど興味しんしん。

虫の専門家はすごい、水と緑の会には釣巻先生が居ますが。

公園の中に移築した、古い農家の側の木にオナガの巣がありました。巣立って空のようでしたが、オナガが集団で暮らしていてギューイギューイとかなりにぎやか、声は良いとは言えないけれど、姿は濃い水色がきれい、カラスの仲間だそうです。今年巣立ったような子供っぽいシジュウカラも数羽見かけました。子供のヒヨドリの鳴き声はヒッ、ヒッ これも教えてもらいました。

又今までは見かけなかった、ヤマガラが現れました。ヤマガラは大きな木があるところにいる鳥だそうです。公園の木が成長したからでしょうか。

今回観察会に参加して見て、赤塚の城址公園の素晴らしさも良く分かりました。

赤塚公園はアップダウンのある森があったり、草原があったり、湧水もあり、何よりも赤塚地区の緑のベルトでつながっていて、自然度はかなり高いように思いました。大きな木がある森にいるヤマガラもいますし、何よりも草原ビオトープの虫の数の多さ、種類の多さ、

赤塚公園の貴重さをあためて確認しました。

将来的には近くの方たちに自然観察会が出来ると良いと思っています（瀬田政江）

赤羽自然観察公園をちょっと紹介

赤羽自然観察公園（北区赤羽西5-2）は、自衛隊十条駐屯地の跡地を北区が自然公園として計画し整備した5.5haという広大な公園で、スポーツができる多目的広場や、炊事ができるデイキャンプ場や、田んぼ、復元移築した農家などもあってにぎやかです。谷には湧水が湧き、水量も多く、東京の名湧水に指定されています。自衛隊駐屯地という、もともと自然地ではなかったところなので、公園整備にあたっては、本来この地域にあったと推定される植物を中心に植栽しました。フェンスで立ち入り禁止区域とした「自然保護区域」では、自然がそのまま移り変わるように放置されています。

オープンしたのは1999年3月ですが、1996年に自然公園としての方針のもとに、市民参加で勉強し、自然公園の中身や活用について話し合いによって運営されてきました。観察会や自然管理、市民向けのイベント等も市民ボランティアで運営されています。広大な土地を自然として位置づけたこと、市民が運営するなど板橋区にない特色のある公園です。



活動のお知らせ

運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。

10月運営委員会： 10月6日(金) 18:30~20:30

11月運営委員会： 11月3日(金) 18:30~20:30

いずれもエコポリスセンター環境学習室です。

会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：11月16日(木) 18:00~ 場所：エコポリスセンター

変更する場合もあるので、事務局にお問い合わせ下さい。

活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)

毎月第4土曜日が定例の活動日です。赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然の変化を観察しています。またゴミ拾いや、ビオトープの改善等必要な修理等を行っています。原則として雨天も実施します。

9月の活動 城址観察会

日時：9月23日(土) 10:00~12:00

集合場所：赤塚トンボ池前(板橋美術館そば)

10月の活動 城址観察会

ゆっくり城址周辺を歩いて自然を探します。ドングリも拾って

日時：10月28日(土) 10:00~12:00

集合場所：赤塚トンボ池前(板橋美術館そば)

生き物のすめる環境整備の活動

日時：月曜日の10:00~12:00

集合場所：赤塚トンボ池

雨天の場合:中止(あやしいときは、坂本(090-4618-1295)まで)

内容：水辺生物調査、清掃、バッタ広場の調査、バッタ広場の大きくなったエノキを切ります。

身近な自然ネット主催 雑木林見学会

詳細は瀬田まで(3969-7124)

身近な自然ネット主催 勉強会

日時：10月10日(火) 18:30~20:30

場所：常盤台1丁目集会所(常盤台1-18-2)